

新年明けましておめでとうございます。

新春のご挨拶を申し上げますとともに、
皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

早いもので新病院に移転して3年目の新たな年を迎えることができました。
職員は基より地域の皆様のおかげ様に支えられてのことに深く感謝いたします。

本年の干支は乙巳（きのとみ）です。乙（きのと）は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へ広がっていく意味を持ちます。また巳は、神の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされております。そのため乙巳の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると言われております。まさに、今年の練馬光が丘病院の姿に相応しい乙巳の年と感じております。また、日本看護協会は重点政策としてSDGsの目標の一つである「すべての人に健康と福祉を」に取り組んでおります。練馬光が丘病院の看護部も地域の皆様方に「健康と福祉を」提供できるよう柔軟に新しいことに挑戦し発展し続け、思いやりの心で看護を提供していく所存です。

本年が皆様にとって、健康で飛躍・向上の良いお年となりますよう祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



看護部長
おおしろ ゆうこ
大城 優子

お知らせ

放射線治療科について

2023年1月より放射線科 放射線治療部門として診療を開始しました。
令和5年9月（83号）に続いて、放射線治療科についてご紹介します。

・放射線治療とは

放射線治療は、初期癌の根治的治療から、薬剤と組み合わせた化学放射線療法、そして疼痛や麻痺の改善を目指す緩和的治療まで各種がんの様々なステージで用いられます。がん以外にも、ケロイド術後の再発予防や、聴神経腫瘍や血管腫といった良性疾患に対しても使われています。

放射線治療といっても、実際には色々な治療が含まれます。当院でおこなっている体外照射の他に、ガンマナイフ・サイバーナイフ、密封小線源を利用した腔内照射（RALS）、組織内照射（Brachytherapy）、重粒子線や陽子線を用いた粒子線治療、近年臨床研究が進められているホウ素中性子捕捉療法（BNCT）も放射線治療に含まれます。体外照射以外の治療法については、患者さんの希望があり、医学的な適応があれば当院から実施施設へと紹介することも可能です。

当院では体外照射全般に加えて、IMRT（VMAT）、SRTをはじめとした高精度の放射線治療をおこなっています。

・地域の医療機関として

放射線治療は原則として平日毎日の治療が必要です。なるべく普段の生活をし、仕事を続けながらも放射線治療が受けられるよう、患者さんをサポートしたいと考えています。多くの病院では初診から治療開始まで1週間以上かかりますが、当院では数日で開始することができます。毎日の治療時間の相談も可能です。大学病院と同じレベルの高精度放射線治療を、より身近でより早く受けることができます。乳癌の術後照射や前立腺癌の根治的放射線治療など、他の医療機関かかりつけの患者さんも受け入れています。地域連携室経由でのご相談をお待ちしています。

練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に1987年5月に設立され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬  光が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-5-1
TEL:03-3979-3611(代)
<https://hikarigaoka-jadecom.jp/>

きらきら・レター

Kirakira-Letter

令和7年1月

第91号

公益社団法人地域医療振興協会 練馬  光が丘病院 広報紙



もくじ

新年のご挨拶2～4

お知らせ4

令和7年新年のご挨拶

新春の候、皆さまにおかれましては希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また日頃、練馬光が丘病院の運営にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年も地域の皆さま、患者・ご家族の皆さま、また多くの関係者の方々からの温かいご支援をいただき、無事に1年を乗り越えることができました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は新病院移転後2年目にあたり、当院にとって新たな発展がみられた年でありました。新病院で始まった放射線治療・緩和ケア内科・小児外科・脊椎外科・回復期リハビリテーション病棟の診療はさらなる発展を遂げました。従来の診療科も充実に努め、地道な診療を続けるとともに多くの診療科で新規の診断法・治療法を導入いたしました。

お蔭をもちまして患者数・救急搬送数・手術数・新規がん患者数・化学療法件数などいずれも増加しました。それに伴って収益も増加し、徐々に経営改善の兆しも見え始めました。医療機関にとって安定した経営は、より良い医療を継続的に提供するための基盤となります。

一方で、働き方改革や医療を取り巻く環境の変化に伴い、業務の効率化と診療への対応との間で課題も生じております。これらの現実に向き合いながら、次に進むべく取り組みを続けてまいります。

本年、当院が目指すのは「良質な医療」のさらなる追求です。医療の本質は人の生命と健康を守ることです。それは医療者の志に基づいて提供されるべきものだと考えます。とくに大切にしているのは、単に医療技術の提供に留まらず、「人に寄り添う医療」を実現することです。一人ひとりの状況や心情を理解し、そのかたにとって最善と思われる医療を提供することが、私たちの使命です。

そのためには、医師・看護師・薬剤師・技術職・事務職など、多職種が連帯連携して最適な医療を提供することが重要となります。また、地域との連携もこれまで以上に強化していかなければならないと考えます。病院が担う役割は単に診療を提供するだけでなく、地域住民の方々にとって「安心の拠り所」であるべきだと考えています。高齢化や医療需要の多様化が進む中で、地域の医療機関、福祉施設、医師会、行政などと協力し、切れ目のない医療福祉の提供を実現していく必要があります。院内での努力だけでなく、地域全体の力を結集することが欠かせません。地域とともに成長する病院であるために、引き続き積極的な連携を進めてまいります。

さらに、本年は職員の働き方にも重点を置いていきます。医療は人が行うものであり、職員が心身ともに健康であることが良質な医療の提供につながります。当院では、これまで以上に楽しく働ける環境づくりを進めてまいります。職場環境の改善はもちろんのこと、職種間の信頼を深め、意見を交わしやすい風通しの良い職場文化を育てていくことを目指します。医療者としての誇りを持ちながら、笑顔で働ける職場こそが最善の医療を支える基本であると信じております。

新しい年を迎え、これまで支えていただいた皆さまへの感謝の気持ちを胸に、私たちはさらなる前進を目指してまいります。患者の皆さまにとって信頼できる病院であること、地域の住民にとって誇りに思える病院であること、そして職員にとって働きがいのある病院であることを目指し、努力を続けてまいります。

結びに、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年も当院への変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



管理者
ながい ひでお
永井 秀雄

練馬区を始め近隣住民及び医療機関の皆様、明けましておめでとうございます。旧年度は、医療機関に受診されることなくお元気に過ごされましたでしょうか。やはり病院を受診することなく生活できることが一番大切だと思います。ご存知の通り皆様のお力添えもあり一昨年の10月に待望の新病院へ移ることができました。また昨年ご報告した通り、新たな治療として放射線治療、ロボット手術や難血液疾患の化学療法など順調に開始し、これまで他院へお願いしていた疾患も当院で対応し、完遂できるようになりました。私事で大変恐縮ですが、去年はこれまでの人生で一番大きな出来事がありました。1月に脳出血で倒れ左半身麻痺となり、約7ヶ月の療養生活を経験しました。辛い体験ではありましたが、得ることも多くありました。3ヶ月の自院入院、4ヶ月の他院入院で自院に足りないものを肌身で感じ、他院から多くのことを学ばさせていただきました。入院中、自院スタッフからの激励のビデオレターや周囲のスタッフから「ここまでできるようになりましたね!」「どうされましたか?」などのちょっとした声かけで元気がでたり心がホッとすることも体感しました。この様に、医療従事者のちょっとした言葉や心遣いで患者（私自身）の辛い気持ちが癒されたこと、まだまだ周囲のフォローが必要で名ばかりですが私自身も9月より病院に復帰出来たことを考えると当院の役割として、治療内容の充実はもとより、患者自身が最終目標ゴール（自宅退院、社会復帰など）に向かって挑戦し続ける意欲を持ってもらうことが重要だと感じました。そのためには、病院スタッフがONETEAMとなりサポート・フォローし、トライしてもらうことも大事なミッションではないかと感じました。病院建物（競技場）は立派になり、グラウンドもトレーニング設備も十分整いましたが、選手(当院スタッフ)のパフォーマンスや試合内容はまだ未完成です。勝負は私たち医療従事者の力量で決まってきます。そこで本年は次のステップとしてチームの一員である(患者様、ご家族)と共に感動するゲームを展開しトライしてもらえようスタッフ一丸となってサポートしたいと思います。そこで本年の練馬光が丘病院のチームスローガンは「ONETEAMで患者にトライを!」で臨みたいと思います。このチームはだめだ、戦略がいまいちだ、練習が足りないなどご意見などありましたら、チームサポーターとして意見箱などご利用いただき、叱咤激励頂けるとありがたいです。私自身ゲームリーダーとして競技場の最寄駅くらいまでは辿り着きましたが、まだグラウンド内にもベンチ入りもできていません。今後も精進してリハビリに励み、早く試合に復帰し患者様をサポートしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副管理者 兼 病院長
よしだ たかよし
吉田 卓義